

## 追悼一名指揮者ジェームズ・レヴァインを偲んで

### プログラム

去る3月9日、アメリカ出身の世界的な名指揮者、ジェームズ・レヴァインが亡くなりました。77歳でした。そこで今日は残されたライブ音源から選りすぐりの演奏をお届けします。レヴァインは1943年6月23日アメリカのシンシナティで、ユダヤ系音楽家の家庭に生まれました。幼少期からピアノを学び、10歳でシンシナティ響とメンデルスゾーンのパiano協奏曲第2番で共演。1956年にピアノをマールボロ音楽院でルドルフ・ゼルキンに師事。1961年にジュリアード音楽院に入学し、ジャン・モレルに指揮を学びました。1964年から70年まで、クリーヴランド管弦楽団でジョージ・セルのアシスタントを務め、1970年にフィラデルフィア管弦楽団の客演指揮者として指揮者デビュー。この年にはサンフランシスコ・オペラにもデビューしました。1973年から1993年までシカゴ交響楽団がメインオーケストラを務めるラヴィニア音楽祭の音楽監督。1971年メトロポリタン歌劇場に「トスカ」でデビューすると、76年に音楽監督、86年からは芸術監督に就任。2018年セクハラ疑惑で解雇されるまで、40年以上に渡って密接な関係を築きました。その間、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ドレスデン国立管、ロンドン響等一流オーケストラの常連として客演。99年から2004年までミュンヘン・フィルの首席指揮者を務め、2004年から2011年にはボストン交響楽団の音楽監督を務めました。しかし、レヴァインが最も輝いていたのは、1970年代中頃から90年代でした。2006年にボストン響との演奏会終了直後にステージで転倒、手術と療養を余儀無くされ、その後も腰痛や腎臓の手術など、健康面での問題が尾を引き、次第に存在感が薄れて行ったような気がします。最後にセクハラ疑惑が加わり、レヴァインの経歴に傷が付くことになってしまいましたが、これまでの数々の名演奏は決して傷の付くものではありません。レヴァインの造り出す音楽はつねに明晰で澆刺とした生命力に溢れています。たっぷりと良くうたい、豊かな響きを引き出す手腕は傑出していました。今回ご紹介する演奏はほんの一部ですが、レヴァインを知る切っ掛けになればと思います。(中川)

\*\*\*\*\*

### ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791): ヴァイオリン協奏曲第5番イ長調K.219 “トルコ風”

～第1楽章、第2楽章から、第3楽章

イツァーク・パールマン (Vn)  
ジェームズ・レヴァイン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1982.6.13 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

### ウンベルト・ジョルダーノ (1867~1948): 歌劇 “アンドレア・シェニエ” ～幕切れの場

モンセラット・カバリエ (sop) / ホセ・カレーラス (tener)  
ジェームズ・レヴァイン指揮メトロポリタン歌劇場管弦楽団  
(1983.10.22 メトロポリタン歌劇場 100周年ガラ・コンサートでのLive)

### グスタフ・マーラー (1860~1911): 交響曲第1番ニ長調 “巨人” ～第4楽章

ジェームズ・レヴァイン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1987.11.27 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

### リヒャルト・シュトラウス (1864~1949): 交響詩 “ティル・オイレンシュペーゲルの愉快的な悪戯”

ジェームズ・レヴァイン指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団  
(2002.1.11 ミュンヘン・ガスタイクホールでのLive)

### ロベルト・シューマン (1810~1856): 交響曲第1番変ロ長調op.38 “春”

ジェームズ・レヴァイン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1990.11.21 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

# 曲 目 解 説

## モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第5番イ長調K.219「トルコ風」

幼少期から広くヨーロッパ諸国を旅していたモーツァルトは、さまざまな語法を吸収し、それを作品の書法に変化させて行きました。3回にわたるイタリア旅行のあと、ウィーン旅行を経て1774年3月にザルツブルクに帰ったモーツァルトは、1774年秋までしばらく落ち着いた日々を送りました。この頃に一気に書き上げられたのが、第1番から第5番までの5曲のヴァイオリン協奏曲です。かつてはモーツァルトの作品とされていた第6番と第7番は、今日では偽作とされているため、この5曲が真のモーツァルトのヴァイオリン協奏曲です。第5番は1775年12月、19歳の時に完成。通称の「トルコ風」は第3楽章メヌエットの中間部に現れるトルコ風のリズムと旋律から由来しています。これまでの4曲に比べてスケールが大きく、洗練された美しさと躍動感を持った、青春時代を代表する傑作です。  
第1楽章 アレグロ・アペルト 第2楽章 アダージョ 第3楽章 テンポ・ディ・メヌエット

## ジオルダーノ：歌劇「アンドレア・シェニエ」

イタリアの作曲家ジオルダーノは、ナポリ音楽院でパオロ・セラオに学び、学生の頃からオペラを書いていましたが、それが出版社の注意を引き、出版社側からの依頼で作曲したオペラ「墜落した生活」は成功とまでは行きませんでした。1895年に完成、1896年3月にミラノ・スカラ座で初演された「アンドレア・シェニエ」で初めて大成功を収めました。このオペラはヴェリズモ・オペラの最後の傑作と言われ、ジオルダーノの代表作として知られています。ヴェリズモとは19世紀後半にイタリア・オペラに起こった運動で、それまでの神話や英雄を扱った誇張された物語ではなく、日常生活の現実的な出来事を扱う物語が好まれました。「フランス革命期、片田舎の伯爵家では贅沢なパーティが開かれ、召使いのジェラルドは贅沢な貴族の生活に嫌悪し、パーティ客のひとり、詩人のアンドレア・シェニエも貧困で苦しむ農民を放置する貴族階級に批判的でした。伯爵令嬢のマッドレーナはそんなシェニエの姿に恋をしていました。革命が頂点に達した数年後、革命政府による恐怖政治が行われ、革命政府の中で出世していたジェラルドは、密かに愛していたマッドレーナを探し出しますが一緒にいたシェニエに革命政府に追われている事を伝えます。しかしシェニエは逮捕。ジェラルドの弁護もむなしく死刑が下され、マッドレーナは他の女性死刑囚と入れ替わり、シェニエとの死を選びます。そして愛し合うふたり人は断頭台へと消えて行くのでした」。幕切れの場はふたりが「私たちの死は、愛の勝利」と絶唱して、朝日の中を刑場へ向かう最後の場面です。

## マーラー：交響曲第1番ニ長調「巨人」

マーラーは生涯9曲の番号付交響曲を作曲しました。第10番は第1楽章のみで未完、「大地の歌」は第8番のあとに作曲されましたが、死を予感し始めたマーラーが「第9番」という運命的な名称を避けて番号を付けなかったと言われてしています。第1番は1884年24歳の時に書き始められ、1888年3月に完成されました。初演は1889年11月に自身の指揮でブダペストで行われました。この曲は先行して書かれた歌曲集「さすらう若人の歌」と密接な関係を持ち、第1楽章に第2曲の旋律を主題にし、第3楽章では第4曲の引用が見られます。最初は5楽章からなる標題付の交響詩として構想されましたが、まもなく標題は破棄され、4楽章の交響曲としてまとめあげられました。「巨人」というタイトルは作者が青年時代に愛読したジャン・パウルの小説からヒントを得ています。第1楽章の神秘的な自然の夜明けから素朴で力強い舞曲、美しい葬送行進曲、そして第4楽章の激しく燃え上がる激情まで、瑞々しい青春の賛歌ともいふべき傑作です。

第1楽章 ゆっくりと 第2楽章 力強く動いて 第3楽章 厳粛に、荘重に 第4楽章 嵐のように動いて

## リヒャルト・シュトラウス：交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快的な悪戯」作品28

この作品は1895年5月にミュンヘンで完成された4番目の交響詩で、同じ年の12月にケルンで初演されました。14世紀北ドイツ地方に生きた伝説的ないたずら者、ティルのさまざまないたずら物語を題材にしています。『「昔々いたずら者がおったとさ」の序奏に始まり市場を通りすぎたティルが馬に鞭打って混乱させ、牧師に変装して説教したかと思うと、騎士になって娘に求愛するも拒絶され、人類への復讐を誓い、学者に論戦を挑むもかなわないと見て逃げ出し、苦し紛れの小唄を歌う。しかしついにティルは逮捕され裁判の結果処刑。「昔々のお話でした」のエピローグのあと、あたかもティルの自由な精神を称えるかのようにティルの主題が力強く現れて曲は終わります。』シュトラウスの作品の中でもとりわけ明るく陽気でユーモアに満ちています。細部にわたる情景描写が見事な名曲です。

## シューマン：交響曲第1番変ロ長調作品38「春」

シューマンは生涯4曲の交響曲を残しましたが、第1番はクララと結婚した翌年1841年1月から2月の短期間で完成し、同年3月31日にライプツィヒでメンデルスゾーンの指揮で初演されました。シューマンはアドルフ・ベッドガーの詩から楽想を得て、当初この曲を「春の交響曲」と呼んで各楽章に標題を付けましたが、後に取り去りました。曲は当時の幸福な生活や快調ぶりを反映するかのようになり、全体が明るく生き生きとした喜びに満ちています。抒情的なロマン性に溢れた名曲です。

第1楽章 アンダンテ・ウン・ポコ・マエストローソアレグロ・ヴィヴァーチェ 第2楽章 ラルゲットーアタッカ  
第3楽章 モルト・ヴィヴァーチェ 第4楽章 アレグロ・アニマーテ・エ・グラチオーソ